

製品名: MKP-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13933**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	DUSP4
別名	DUSP4; MKP2; VH2; Dual specificity protein phosphatase 4; Dual specificity protein phosphatase hVH2; Mitogen-activated protein kinase phosphatase 2; MAP kinase phosphatase 2; MKP-2
遺伝子 ID	1846.0
SwissProt ID	Q13115
免疫原	抗血清はヒト DUSP4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

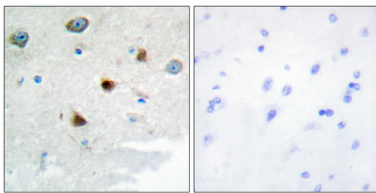
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、二重特異性タンパク質ホスファターゼサブファミリーのメンバーです。これらのホスファターゼは、ホスホセリン/スレオニン残基とホスホチロシン残基の両方を脱リン酸化することにより、標的キナーゼを不活性化します。また、細胞の増殖と分化に関連するマイトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼスーパーファミリーのメンバー (MAPK/ERK、SAPK/JNK、p38) を負に制御します。二重特異性ホスファターゼファミリーの異なるメンバーは、様々な MAP キナーゼに対して異なる基質特異性を示し、組織分布と細胞内局在が異なり、細胞外刺激による発現誘導様式も異なります。この遺伝子産物は ERK1、ERK2、および JNK を不活性化し、様々な組織で発現し、核内に局在します。異なるアイソフォームをコードする 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが観察されている。触媒活性: $\text{リン酸化タンパク質} + \text{H}_2\text{O} = \text{タンパク質} + \text{リン酸}$ 。触媒活性: $\text{タンパク質チロシンリン酸} + \text{H}_2\text{O} = \text{タンパク質チロシン} + \text{リン酸}$ 。機能: MAP キナーゼ ERK1 および ERK2 の Thr および Tyr 残基の両方を脱リン酸化することにより、細胞分裂促進シグナル伝達を制御する。類似性: タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属する。非受容体クラス二重特異性サブファミリー。類似性: 1つのロダネーゼドメインを含む。類似性: 1つのチロシンタンパク質ホスファターゼドメインを含む。

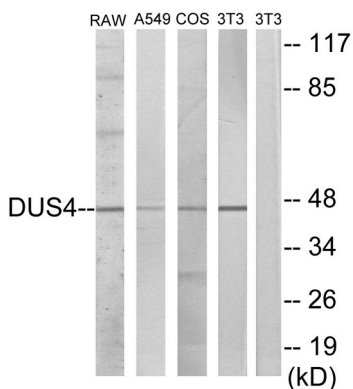
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

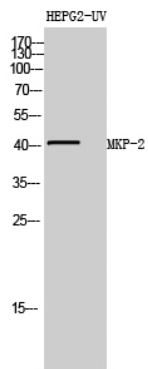
画像データ



DUSP4 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



RAW264.7、A549、COS7、NIH/3T3 細胞のライセートを DUSP4 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した MKP-2 ポリクローナル抗体を使用した HEPG2-UV 細胞のウエスタンブロット解析。